全国表彰

第57回

読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。

青少年読書感想文全国コンクール

赤岡小学校2年生の吉田海成（かいせい）くんがサントリー奨励賞に輝く

第57回青少年読書感想文全国コンクールの入賞者が1月28日に発表されました。全国で758作品の応募があり、県の代表として選ばれた14作品の内3作品が入賞。その内香南市内の児童2人が優秀作品と奨励作品に選ばれました。

3月号に引き続き入賞作品を紹介します。

香南市内の受賞は次の通りです。
（敬称略、当時の学年で表示）

●**優秀作品「毎日新聞社賞」**
高橋 新　（3月号広報で掲載）

●**奨励作品「サントリー奨励賞」**
吉田海成

（入賞の種類と数…最優秀５、優秀２５、優良３０、奨励４９）

Interview

昨年の秋にクラスで一輪車が話題になり、「かっこよく乗って、みんなに自慢したい」と思い、一輪車の乗り方の本を読んだという海成くん。一輪車の得意なお姉ちゃんに教わりながら、練習に夢中になっています。目標を聞くと「いつかお姉ちゃんと一緒に一輪車で遊びたい」と話してくれました。

▲吉田海成くん（赤岡町）
高知県の授賞式で受賞者を代表して、感想文を朗読。

一りん車　はじめてのれた！

図書『一輪車　はじめてのれた！』

赤岡小学校2年　吉田 海成

ぼくのお姉ちゃんは、一りん車がとくいです。お姉ちゃんは、ジグザグ、ぐにゃぐにゃとうんてんするようにのれるし、メリーゴーランドなんてわざもできます。

そんなお姉ちゃんを見て、「かっこいいなあ。」と思いました。ぼくもれんしゅうして、メリーゴーランドとかをやってみたくなって一りん車のれんしゅうをはじめました。

まだそんなにのれないぼくは、もっと上手になりたくて、この本を読んでみることにしました。

本を読んでみると、一りん車ののりかただけじゃなくて、前と後ろの見わけかたや、どんなばしょでのったらのりやすいか、ということが書かれていました。ぼくは、よく一りん車の前と後ろをまちがえてしまいます。けど、これでもう、あまりまちがえなくなると思います。

ある日、お姉ちゃんといっしょにれんしゅうしていた時のことです。ぼくがなかなかのれないでいた時、お姉ちゃんが「下をむいたらこわいき、自分が行きたいほうをむいて、のってみいや。」と教えてくれました。

言われたとおりにのってみると、ちょっとだけだったけど、のることができました。お姉ちゃんはすごいし、やさしいと思いました。

また一りん車の本を読むと、お姉ちゃんの言っていた「とおくを見てのるといい」ということがのっていました。本にのっていることを知っているなんて、お姉ちゃんはすごいと思いました。もしかすると、お姉ちゃんもこの本を読んだのかもしれません。

ぼくは、たくさんたくさんれんしゅうして、本にのっている一りん車にのったままボールをドリブルするわざができるようになりたいです。そしてお姉ちゃんに「いつのまにできるようになったが。かいせい、すごいやん。」と言ってもらいたいです。お姉ちゃん、どっちが上手になるか、しょうぶやで。

第５７回　高知県青少年読書感想文集より講評を抜粋。

海成くんの感想文、とっても好きです。それは、一りん車にのるのが、ぐんぐん上手になっていく海成くんのようすが、しっかりとつたわってくるからです。

一りん車の前と後ろの見わけ方、どこでのったらのりやすいか、下向かないで、遠くの方を見てのるとうまくのれるということも、本をみてわかったんだね。いい本見つけたね。

▲お姉ちゃんの吉田美月さん（赤岡小４年※当時の学年）と海成くん。
表彰式には、一輪車の得意なお姉ちゃんも出席。

香南の文化力 Power of Culture

※このコーナーでは、文化系で活躍している人や団体を紹介します。皆さんの情報提供をお待ちしています。
■問い合わせ ☎57－8500　秘書広報係まで

▲最優秀賞の賞状を受け取る志磨村みなみさん。

高知県表彰

第57回

県青少年読書感想文コンクール

2月25日（土）高知市で、第57回高知県青少年読書感想文コンクール（県学校図書館協議会、県教育文化祭運営協議会、土佐教育研究会、毎日新聞高知支局主催）の表彰式が行われました。応募総数39, 757点（小学生14, 174点、中学生14, 672点、高校生10, 911点）から最優秀賞14点、優秀賞21点、優良賞30点のほか、学校賞10校に賞状と副賞が贈られました。

式には、約150人が出席。県学校図書館協議会長が「読書を通じて新しい世界と出会い、思いや考えをしっかり伝えることができていました。これからもたくさんの本を読み、感じたことを文章に表現し、心豊かに成長して」とあいさつ。会長らが受賞者一人ひとりに賞状を手渡しました。また、全国コンクールでサントリー奨励賞に選ばれた赤岡小学校2年の吉田海成くんが、受賞者を代表して「一りん車　はじめてのれた!」を元気に朗読しました。

香南市内の受賞は次の通りです。
（敬称略、当時の学年で表示）

●**最優秀賞（県代表として全国コンクールへ）**
「一りん車　はじめてのれた！」
吉田海成（赤岡小２年）
「ぼくは漁師になる」
高橋 新（佐古小４年）
「『心を整える』を読んで」
別役清弥（香我美小５年）
「犬たちを送る日」
志磨村みなみ（赤岡中１年）

●**優秀賞**
「失敗は成功へのカギ」
玉置美育（赤岡小４年）
「夢を思い続けること」
松浦立季（野市小６年）
「『I-t』と呼ばれた子 幼年期』を読んで」
下元 翼（高知商業２年）※野市町
「夜と鉄道と銀河の感触」
岡本 萌（安芸高３年）※香我美町

●**優良賞**
「『イルカ』をよんで」
近藤大敦（岸本小１年）
「未来へのステップ」
江本美咲（安芸中２年）※夜須町

◆**学校賞**「高知県知事賞」
香南市立赤岡小学校

▲県知事賞の賞状を受け取る赤岡小学校岡西博文校長。

学校賞の中で、最上位の県知事賞を受賞した赤岡小学校。賞状には、「すばらしい感想文でした。これからも心を育てる読書を続けてください」と県知事の言葉が添えられていた。